

議長定例記者会見 会見録

日時：平成 23 年 4 月 14 日 10 時 30 分～
場所：全員協議会室

1 発表事項

・発表項目なし

2 質疑応答

(議長)おはようございます。ただ今から選挙後初というか、私の任期内の最後の議長定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。特に報告事項等はありませんが、ちょうど議長になりまして丸 2 年たちますので、議長就任から 2 年を振り返っての感想ということで述べさせていただきたいと思います。まず、去る 3 月 11 日に発生をいたしました東日本大震災により尊い命を亡くされました多くの皆さまに心から哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さま方にお見舞いを申し上げたいと思います。三重県におきましては、3 月 14 日に三重県東北地方太平洋沖地震支援本部、4 月 6 日に名前を東日本大震災支援本部に変更をいたしておりますが、この支援本部を設置いたしまして、被災地域の支援や県内の被害状況の把握に当たっていただいておりますが、三重県議会におきましても、先の定例会で「東北地方太平洋沖地震に関し被災者の救出及び被災地の復興に向けて三重県が県内外に最大限の支援を行うことを誓い及び求める緊急決議」というものを 3 月 16 日にあげさせていただいておりますし、ご案内の通り義援金も 500 万円を日赤を通じて被災地の皆さん方にお届けさせていただいたところでございます。さて、私が議長になりまして、先程冒頭申し上げましたように、ちょうど 2 年を経過いたしましたので、その感想などを少し述べさせていただきたいなと思いますが、一昨年 5 月に第 102 代議長に選出をされました。同じ年の 8 月に衆議院議員選挙がございまして政権交代がなされました。私も 7 月に全国都道府県議会議長会の副会長に選任されまして、ちょうど新政権が地域主権改革等、地方自治の在り方、また議会の在り方等の議論を進めていただいておりますので、その中に私自身も参加させていただいたということでございます。また、一昨年の 10 月に議会改革諮問会議を設置させていただきまして、いろいろ専門家の先生や有識者の先生方にご参加をいただいて、県民アンケートとか県職員のアンケート、または市町の議会の皆さん方のアンケート等、広範囲にいろいろご調査をいただきまして、昨年 5 月に中間報告、今年の 1 月に最終答申をいただいたということでございます。最終答申の取り扱いにつきましては、代表者会議で各項目それぞれ担当の部署に割り振りまして、それぞれの会議でご検討いただくということ

になっておりまして、まだこれから改選後いろいろ議論が出てくると思いますが、遂行していただきたいなと思っています。とりわけ、知事が代わりましたので、当然のことですが、三重県のここ10年くらいを想定しております総合計画「県民しあわせプラン」の見直しとか、それから知事が出ないということとで止まっておりまして向こう4年間の戦略計画の見直しとか、こういう議論が当然、新知事の下で始まると思いますから、議会の方もその総合計画の見直しですとか戦略計画の見直し等に合わせて議論ができるように、例えば諮問会議からご提案があったような通任期制ですとか通年制、そういう議会のサイクル、これも早急に結論を出していかなければいけない話だろうと思っておりまして、そういうところも合わせてこれからの議論の中心になっていくのかなと思っておりまして。また、地域主権改革の議論の中で、議会の在り方等いろいろ議論がありまして、とりわけ大阪の橋下知事が議会内閣制等、新しい提案をされる、そういうことで8月には大阪で全国自治体議会改革推進シンポジウムを開催させていただき、大阪の橋下知事ですとか、元総務大臣でございました前岩手県知事の増田寛也さんですとかをお呼びして、星浩さん、朝日新聞編集委員ですとか、この方のコーディネイトのもとでシンポジウムを開催させていただいたり、いろいろ各種他の議会との交流の輪を広げていくということでございます。さらに、今日副議長お越しでございますが、広聴広報機能の強化ということで、「みえ出前県議会」を開催したところであります。いずれにしても、選挙がありまして新しいメンバーもご参加をいただいたり、新しい構成のもとでいよいよ三重県議会も次の一步を踏み出すということでございますので、今まで積み上げてきました議会改革の歩みをとどめることなく、さらに住民の皆さま方に開かれた、しかも住民の皆さま方が議会議論に容易に参加できるような環境を構築して、改革先進議会としての三重県議会をさらに充実していきたい、そのように思っております。以上でございます。

(質問) この任期中でやり残したこと、反省っていう部分がありましたら。

(議長) 後でまた質問が出るかと思っておったんですが、当初私が議長になる時に、いわゆる議長マニフェスト、まあ評判は悪かったんですが、議会改革試案、これをご提示をさせていただきました。その中でやはり四年議会の議長任期二年間を通じた議会の基本計画とかそういうものも作りたいなと、思ったりですね、やはり人事と予算、これを今の執行部の議会の人事、議会の予算が執行部の方に握られているという現状の中で、何とかこれに風穴を開けたい、ということで頑張ったんですが、公共政策大学院の院生さんをインターンとしてお迎えをするというような一歩前進はできましたけれども、まだまだ道半ばということもございまして、こういうこともこれから頑張っていきたいと思って

おります。それから議会改革諮問会議の方からいろいろご提案をいただいておりますので、これは新しいメンバーと共に一緒に議論をしたいと思っておりますし、それからいろいろ全国的に議論を行われておりました議員の報酬の在り方、それから国の方にもいろいろお願いをして途中で止まってしまっています議員の身分と職責、こういうものの議論をもう少し深めればと思っていたんですが、これがまだ途中で止まっているというのが少し残念かなと思っております。

（質問）今回の県議選だったわけですがでも県議選の結果、みんなの党が議席を獲得したり、共産党が議席を失ったりしましたけども、その受け止めについて何かコメントいただければと思います。

（議長）これは、一つの民意の表れですから、そのまま素直に受け止めるべきだと思っております。いろいろ新しい価値観のもとで新しい時代の要請に応じて議会の構成が変わってくるというのは当然のこととございまして、共産党さんが時代に合わなくなったという意味ではありませんけども、やはり党としての運動量等がある意味では不足をしていたのかなという結果かなと思っておりますし、みんなの党とかですとか、今回、減税日本の候補者も出られまして、残念、残念といいますが、議席には届きませんでしたけれども、こういういろんな動きが選挙戦の中で出てきて、いろんなご意見が戦わされるということ自体は県議選の意義を深める意味で有意義であったという判断をしております。

（質問）知事に就任する予定の鈴木英敬さんの公約の中には議員報酬の削減や議員の定数の削減などもうたわれていますけども、そのことについては議長、今どのようなお考えをお持ちでしょうか。

（議長）鈴木さんがそういうふうなご意見をお持ちになっておられるというのは新聞等の報道で承知は致しておりますが、参考にはさせていただきますけども、定数とか報酬、これは議会が議会の中で判断をさせていただきたいと思っております。既にこの改選前に議会の報酬の在り方をどうするかと議会内でいろいろ議論させていただき、改選後、速やかに議論を始めるとすることで各派合意をされておりますので、新知事のご意見はご意見として参考にはさせていただきますが、あくまでも議会は主体的にこういう問題には取り組みたいと思っております。定数の問題も同じです。

（質問）振り返ってですね、知事選からまずお聞きしますが、この結果についてはどうなお考えをお持ちですか。

(議長)やはり今の中央の政治の状況と非常に政治は物事がなかなか決まらない、決めれない、またいろんな意味での閉塞感に満ちている中で、変化を期待される県民の皆さま方の気持ち、お考えが今回の知事選の結果につながったのではないかなと思っております。取材がありましたので某紙にもお話をさせていただきましたけれども、一昨年、政権交代の時の自民と民主が入れ替わったような印象を与えておまして、やっぱり松田さんが実績を強調され、鈴木さんが未来を語ったというところに県民の皆さま方の変化に対する期待感というのが鈴木さんの方に集まったのかなと、そんな思いがしております。

(質問)三重県方式絡めての戦術の失敗みたいなものはお感じになりますか。

(議長)戦術が失敗したかどうかは私も直接選挙のど真ん中に入っていたわけではありませんので。

(質問)桑名はもちろんですよね。

(議長)桑名も自分の選挙が忙しくてなかなかそういうわけにもいかなかったんですが、一つは大震災の影響、これは避けられないと思います。各企業さん等も少し大きいところは向こうに取引先があったり、自分のところの工場の出先があったり、営業所があったり、さまざまな被害を受けられたりして、そちらの方の支援に人を、それからエネルギーを割かなければいけないという状況があり、選挙に従来のように関われないというような問題もございましたし、労働組合の方も端的に表れているのが自動車等、会社そのものが止まってしまっているということで、組合のいろいろ意思決定がなかなか下まで下りなかったというようなこともあるのではないかと、こう思っております。ですから、従来三重県方式がそのまま機能しなかったということではなしに、もちろん民主党の支持率の低下というようなものもございしますが、いろんな社会情勢の中で従来持っている力を十分に発揮できなかったということではないかと思えます。

(質問)岡田幹事長はおとといの民主党の中の集まりとかも、それと定例会見でもおっしゃっているんですけど、結局三重県知事選に関しては、松田さんの推薦依頼がまあ遅かったというふうなところで、割とお茶を濁される感じがするんですけど、その辺はそうなんですか。

(議長)個々のですね、一つ一つ取り上げていきますとこういうこともあった、ああいうこともあった、こうした方が良かった、ああした方が良かったという

結果論的にいろいろ議論は出てくると思いますが、松田さんが出馬表明をされて、民主党が推薦決定するまでの間、これが一定期間あったんですが、この期間国会議員なり国会議員の秘書が自分たちの支持者等にですね、なぜ松田さんを応援しなければいけないかということの説明がなかなか難しかったというふうに、ちょっと聞いてはおります。

(質問)あと県議選ですけど、議長所属の第一会派である新政みえは、結果的に第一会派を保ちましたけども、前回と同じようになんか拮抗した状態、全選挙区結局立てられなかった部分もありますが、その辺含めてどんな感想をお持ちですか。

(議長)候補者選びに難航したというのは事実だと、こう思っております。これは新政みえだけではなく、自民さんも全候補者全選挙区に擁立できていない、過半数を擁立できていないというのは現実でございます、やはりこの時代、地方議会の在り方、議員の在り方等も含めてですね、やはり反省材料になるのかなと思います。結果として、まあまあ選挙前と同じような構図で、みんなの党の方とかですね、無所属の方出てきましたけども、基本的な構図としてはそう大きな変化は無かったのかなと思っております。

(質問)ただし、次どなたが議長になられるにしても、ある程度、二会派主流でというわけにはいかなくて、ある意味、少数会派がそのキャスティングボードを握る可能性もありますけども、その辺の議会の今後のその勢力図とか踏まえてですね、どんな感じをお持ちですか。

(議長)会派間ですね、いろいろ議論というものは否定はしませんけれども、やはり議長を選ぶときは、その方の能力、識見、人格、そしてこれから、もう今任期二年制の議長ですから、二年間で何を成そうとしているのか、そのようなことをしっかり受け止めていただいた上で、判断をしていただければと思います。

(質問)その絡みで新知事との関係なんですけど、次期知事は、割と二元代表制を公言して否定はしていませんけども、おっしゃっていることをかんがみますと、結局二元代表制の否定につながるような部分もある、例えば議員定数であるとか議員報酬であるとか、その辺のことをおっしゃったりとかしているのですが、その辺は今後議論していきたいという考え方ですか。

(議長)まさにこれからだと思います。ただ、記者会見等の発言を拝見してお

りますと、会派ですとか、政党にとらわれずにですね、一定の緊張感がある関係の中で、お互い議論を深めていい政策を作り上げていきたいというような趣旨のこともおっしゃっておりますので、二元代表制に対するご理解は、十二分にお持ちではないかと、こう思っております。

(質問)あとゼロベース的なものとして今、表立って掲げられているのが、新博物館と公立病院、県立病院ですね、改革の部分なんですけど、志摩に関しては特に志摩病院は公立でいくべきだみたいな、そういう発言を選挙中されているので、そういうことを踏まえてゼロベースに関して、既に二年間なり三年間揉んできて議決もしている部分について、差し戻し案というか、そういう考えの議論というのは、議会としては乗れるんですか。

(議長)飲めるか飲めないか、具体的にご提案があったときに判断をさせていただきたいと思いますが、少なくとも例えば新博物館にしましても、野呂知事から提案のあった後ですね、二年間議会として議論をし、さらに財政問題調査会等で、ライフサイクルコストとかいろんな新しい考え方も入れた上で、慎重に慎重な議論をさせていただいた上で議決をいたしておりますし、志摩病院との指定管理者の問題等も含めてですね、議会の中でも苦しみながら一定の結論を得た、そういう経緯というのは改めて鈴木新知事にも、議会として説明する機会があればご説明をさせていただいた上で、知事の判断がどう出るのかということを見させていただきたいと思います。

(質問)ただ当初、新県立博物館については、三谷議長はご反対の主張をされていて、その意味では今、新知事が打ち出される部分というのは、相照らすものがあるんですか。

(議長)それは当初ですね、いろんな議論があって、それを収めんして議会として一つの結論を得た上はですね、その結論に従って動くというのは当然の話でありまして、いろいろ議論があり慎重に検討もさせていただいた上の結論ですから、それは十二分に尊重すべき話だと思っております。

(質問)今回北の方で、鈴木さんの得票が結構伸びたというものがありまして、前段として愛知、名古屋の変化というのがあるかと思うんですが、その点の影響というのは、議長のお地元等々で、現場で見られてですね、どの程度あったのかということをお聞きしたいと思います。

(議長)よく分析しておりませんので細かいことはわかりませんが、やはり名

古屋の影響というのは皆無ではなかったと思います。それは先ほど申し上げましたように、やはり今の政治に対するうっ積した閉塞感、これをどこかで打破して少しでも変化を求めたいという、皆さん方のお気持ちというものは、必ず出てきたのだらうと思っております、それは都市部での鈴木候補のですね、票にもある程度影響があったのかなと思いますし、比較的若い応援団の方が鈴木さんの方に多く行かれたというのも、そういうことの一つの表れではないかと、こう思っております。桑名ですとか、それから木曾岬の私の地元では、松田さんの票が多く出たんですけれども、桑名市なんかは当初予想していたよりはずっとその差が小さいというのも現実ですので、やはり従来型、従来型っておかしいですが、三重県方式でやってきたやり方の一つの限界というか、それを上回る政治に対するご不満というものが現れたのかな、という感じがします。

(質問) 今いみじくも、三重県方式の限界とおっしゃったのですが、どのへんが限界に来ていると考えていますか。

(議長) 三重県方式というのは、ご承知のとおり民主党とですね、それから連合みえと新政みえと一緒に選挙を戦うという方式なんですけど、これはどちらかと言えば民主党の方は各国会議員とか、系列の地方議員の後援会等を下まできちんと掘り下げていく、連合みえの方は労働組合の方々の下まできちんと伝えていくことですし、新政みえはもちろんそうなんですけど、そういうやり方で、それを上回る大きな動きを作ることができなかったということです。

ですからある程度、既にわかっているところへの層には相当数働きかけがあったんでしょうけど、そこから先の広がりが今回なかなか難しかったのかなと、それはやはり何度も言いますが今の政治に対するご不満ですとか、そういうものが変化を求める大きなうねりになって、それが鈴木さんの支持につながっていったということだらうと思います。

(質問) 今回、鈴木さんが掲げられたのは、例えば公務員の人件費削減とかですね、議員の報酬削減とか等々、名古屋で起きたようなですね、いわゆる既成のものへの批判というか反発をおおったような形なんですけど、そのことが一定程度ですね、県民への理解を得たということは言えるんでしょうか。

(議長) と思いますね。例えば公務員の給与の2割削減等は政権交代時には民主党がそれを掲げて先の衆議院議員選挙を戦って、政権交代を成し遂げて、その後それが実現していないですよ。2割削減が適切かどうかという議論は全然別として、政治の約束事としてそれが実現していないというのが現実ですから、今回やっぱりそういうところに、県民の皆さま方の一定の評価というか期待が

集まった部分もあるんじゃないかと思います。

（質問）その点、いわゆる連合の中でもですね、いわゆる官公労系とそうではない民間労組で、かなりまあ温度差があったというのは、そこらへんに起因しているというか。

（議長）それはちょっと違うとは思いますがね。ただ現実には、公務員給与の2割削減をしようとするれば、当然労使交渉等もきちんとやって、積み上げていく話ですし、現実には野呂県政の下で相当数県職員も少なくなってきたおりました、これ以上減らすことが行政サービスを維持していく上で、できるのかどうか等もありますし、生首を切るというのは当然それぞれ生活というものがありますから、そんなに簡単にできる話ではなくって、スローガンとしては言えるんですけど、実際にいざやろうとするとなかなか難しい。それが今の政権でも、選挙前には政治スローガンとは言いませんが、公約で挙げていた、マニフェストで挙げていたものが、実際なかなか現実には実行ができないということが壁にぶち当たっているということですので、今後鈴木さんがですね、そういうものを何らかの形で具体化しようとしたときに、どういうふうにするのか、これはしっかり見守っていきたいと思います。

（質問）今回の選挙戦でですね、松田さんが乗ったいわゆる舞台装置なんですけど、「日本の原点」、選挙戦のさなかも、前も活動されたと思うんですが、この点、北の方の首長さんが特に多かったと思うんですが、その点理解は、県民にきちんとされた、あの動きは、どういうふうに考えますか。

（議長）なかなか分かりにくかったんじゃないかと思います。それぞれの地方自治体の市町の首長さんが、首長連合を作って、知事をつぎ上げるというのは新しい政治の流れですから、これはこれで評価もできると思いますし、知事選が終わったから、これはもうこれで終わりだということではなしに、新しい首長連合としての活動というものは、ぜひ続けていただきたいとは思いますが、なぜ首長連合が知事なんだ、というようなところも含めてですね、なかなか説明がきちんとされて無かったのかな、といった感じはしますし、後で日本の夜明けだとか三銃士だとか、良く知りませんけどいろいろ出てきて、本来きちんと議論しなければいけない首長、各市町の長と知事との関係、また、住民との関係、こういうところの議論があまりされずに表立ったパフォーマンス的なところで話が終わってしまった、というのは非常に残念かなと思っています。

（質問）三重県方式なんですけど、金森さんもおっしゃったんですけど、結局

三重県方式そのものってというのは問題ない、要は今回は非常にイレギュラー的な捉え方っていう感じですね、つまり候補者選考が遅れたとか、あるいは候補者そのものが推薦を求めるのが三者の一角の連合は先に行ったけど、民主については求めなかったとか、ある意味、方式そのものは間違っていない、要は今回の候補者選考からの一連のものっていうのがかなりイレギュラー的であって、だからこれは戦術としては間違っていないっていうふうな、なんかそういう認識があるような感じがするんですけど、その辺はそうなんですか、それともこれからある程度バージョンアップしてかなきゃいけないものなんですか。

(議長) 常に見直していくってというのは大事な話だと思います。ただ基本的な構造として三重県内での大きな選挙で三重県方式ってというのが、まあ、かなり定着をしてですね、現実にも今まで力を出してきた、結果も出してきたということは否定できませんから、常にその方式の見直し等は行われるでしょうけども、基本構造がそう変わるとは思っておりません。ただ今回は大震災の直後とか、それから候補者選びの選定のどたばたですとか、いろいろなものが出てきたのかなという感じもします。そこまでの細かい分析はこれからだろうと思います。

(質問) ただですね、15年知事選でかなり激戦になった時の、現ニュースキャスターと今の知事との戦いの中で、そのときの三者におけるリーダーの存在と今回の選挙におけるリーダーの存在は既に世代交代しててですね、様変わりしてるじゃないですか。ある意味強力なリーダーってというのが、今の三重県方式の中に存在しないって感じがするんですが、その辺はどう考えますか。

(議長) そういうことよりも、三重県方式の上に候補者が乗っかるとこれはもう絶対に勝ちパターンなんだと、勝ちの方程式だというような少し甘いものを持っていたのではないかと。ですから民主党の推薦を受けて三者の上にきちんと乗った段階で、これでもう勝つと、完全に勝ちパターンに乗ったというような判断、当事者間で少し甘い部分があったのかなと、こう思います。ですからそこら辺のところは三重県方式の今回の、何というかマイナス分で、これが非常にいい教訓となってですね、この形になったから必ずしも勝つてはない、ということが明らかになってるわけですから、今後皆さん色々反省の上でさらに磨き上げていくのではないかと、こう思います。

(質問) 議会運営のことで、給与改革、報酬改革を巡ってですね、会派間で話がかたがた先送りという形になりました。今後、知事と党野党というふうに分かれることが恐らく予想されると思うんですが、その中で、今度、対知事という意味では議会でもとまって対峙していかなければいけない。そのときに今の

ままの審議の仕方とかですね、やり方できちんとまとまっていけるのかどうか。もし、まとまっていけなさそうであるんだったら、どういうふうな改革が必要なのか、そこら辺のお考えをちょっと伺えればと思います。

(議長) 8年前にですね、野呂さんが当選した時に、野呂さんを知事に押し上げた会派は、県議会の中では新政みえだったんですね。新政みえは、野呂さんが知事になったとたんに、知事与党野党っていうような話は一切止めようということで、対知事と対議会の関係の中で議論をしてきました。こういうものをずっと今まで三重県議会は積み上げてきておりますので、まあ選挙の時は、それぞれ応援団が分かれて戦いますが、知事自身ももうノーサイドと言っておりますけれども、新知事もね、選挙終わりましたから、三重県議会は、いつも私言っておりますとおり、議会としては緊張感を持ったですね、建設的野党ぐらゐの立場で知事には接していくと、当然、一定の距離感を持って対峙していくということになると思いますし、もしそれができないようなら、今までの三重県議会の二元代表制の議論は一体何だったのかということになります。

(質問) 副議長にお伺いしたいのですが、副議長も今回、松田さんを支援されたという中で、今回の知事選の結果について、どういうふうな感想を持たれて、まあ全体の動きをどういうふうに総括されますでしょうか。

(副議長) 私らはいわゆる人間的な付き合いの中で、松田さんは知事にふさわしいということで、ただただそういう観点で推薦、支援させていただきただけで、全県的な選対にも入ったわけでもありませんし、私は私なりに松田さんのいわゆる知事としての行政手腕に期待したということを地元で訴えて、地元である程度理解を得られたということで、他の選挙区の党については、全然、選対にも入っておりませんので、ちょっとコメントするあれはありません。

(質問) かつて先ほど野呂さんの誕生うんぬんの時の知事与党の会派のときも同じでしたが、そのときに新政みえはある程度、節度を持って仮に対応されたとして、かといって自民みらいはそういう対応をするとは限らないですね。その辺でもし混乱した場合っていうのは、それは会派間同士で本来の二元代表制の一枚岩っていうふうな議員の説得というか会派間の話し合いをするしか方法は無いわけですか。

(議長) いや新しい議長ですね、リーダーシップって言いますか、指導力の下で議会は一丸に一つにまとまっていくということを期待をしたいと思えますし、またそうすべきだと思います。

(質問) その新しい議長の中には、三谷議長も入っておられますか。

(議長) 5月12日から先の話ってというのはですね、神のみぞ知る世界でございまして、今の時点で私の立場でどうこうというのは、あまりふさわしくないのではないかと、こう思います。

(質問) 次期議長像っていう、公開で言われているところの全国議長会会長になり得るそのポジショニングだと、その形の中で三谷議長が副会長のときに東海北陸ブロックから仮に今回そこから選ばれるとして、会長任期が2年という形で変えられましたよね。ということは今、東海北陸ブロックで会長任期2年に合致する議会というのは三重県議会しかないわけです。ある意味もうレールは引かれていっているんですが、そのときに新議長というのは、全国議長会会長としては足らずか、あるいは足りるかというふうな、そんな値踏みというのは今回の役選には影響しているんですか。

(議長) 当然一人一人の議員の方がですね、そういう観点からのご判断されると思います。新しい103代の議長はですね、もしなられた方は、私の方からお願いしたいのは、一つは先ほど話が出ました議員報酬、このことについて速やかに議論を始めることになっておりますので、これを是非やっていただきたいと、こう思っています。それからもう一つ、これも先ほど申し上げましたが、議会改革諮問会議の方からいくつか大事なご提案をいただいております、その中で特に議会のサイクル、当然、知事の方が総合計画ですとか戦略計画、これを新しく作られるか見直しをされるか、いろんな議論が始まると思いますが、それに合わせて、議会のサイクルってというのはどうあるべきか、これを早く決めないといけませんので、この議論をやっていただきたいなと、そう思っております。それから、これはちょっと別の観点なんですけど、今回、東日本大震災ってというのが起きまして、その中で各議会の責任と役割ってというのはどうあるべきかというのは、これはもう一度しっかり考え直さなければいけないと思っています。先日、全国議長会がありまして、上京しましたら、そこに岩手、それから福島、宮城の三県の議長さんがお越しになっていまして、そのお話を聞いておりましたら、岩手は震災の復旧復興に向けて、執行部といっしょにやっていると、こういうふうな佐々木議長のお話でした。つまり、一種の議会内閣制のようですね、執行部の中に議会も一緒に入って、まあ拳国一致って言いますか、危機管理内閣って言いますか、そういうふうな形でやらしていただいているというようなことでしたし、宮城は、特別委員会を設けて、5つのチームを作って、地元や被災地や職員に負担をかけないための自己完結型のチーム

にして、それぞれ調査活動を今やっていますというようなお話でした。この大震災に直面して議会が動いているということに関しては、心から敬意を表するつもりでございますけれども、やはりこういうふうな大きな危機だとか、大きな災害に直面したときに、議会がどういう役割を果たし、どういう責任を果たすのかということの議論がかなり不足をしておりました。こういうときは当然のことながら、行政と住民がきちんと連携をしたりですね、それから国、それから県、市町、企業、NPO等いろんな主体が連携強化をして動くということが求められるわけですが、そういう中で、県議会の責任と役割、この際大いに議論をして、その役割、どういう役割を果たしていくのかということは明確にしていく必要があるのではないかなと思っています。16年前の阪神淡路大震災のときに兵庫県議会がどう動いたのか、神戸市議会がどう動いたのか、こういうことも含めて、ぜひ新しい議長のもとで、議論をしていただきたいなと、こう思います。それから今お話にありました全国議長会です。ご指摘のとおり、今のままでいきますと、恐らく三重県議会の議長が全国の議長会の会長になる可能性ってというのは、極めて高いと思います。ですから、新議長は当然、まあ、やっとな審議入りをしましたけれども、地域主権関連三法案の早期の制定ですとか、それから私たちが求めてまいりました地方自治法の改正、議員の身分報酬等を含めて地方自治法の改正、それから公職選挙法の改正、こういう問題も含めてですね、地域主権改革をどう進めていくかということに、大いに全国発信をしていただければ、そのような議長を是非選んでいただきたいと、このように思っております。以上です。

(質問) せっかくですから、副議長、振り返られて何かご感想は。副議長職として。

(副議長) 全国的に有名な議長の下で働かせていただいたということは、本当に生涯忘れえぬ光栄なこと였습니다。以上でございます。

(質問) もうこれずいぶん前になるんですが、ある議長さんを入れて、記者クラブの人たちと懇親会みたいなのがあったんですね。その時に、その議長さんが、先ほど議員報酬とかいろんな議員削減とかそういうのが出てますが、いわゆる県議会議員の人たちのことなんでしょうけども、若い人たちがなろうとしない。議員にね。その理由として、議員の報酬が安すぎると、そういうことを言ってみえました。私は個人的に、議員の報酬は高いとは思いませんけど、決して安いとは思わないんで、安いとは思いませんが、そりゃいろいろな理由はあるんでしょうけど、私は安いとは思いませんけど、ただその方は、それは見解の相違だと言っていました。で、最近になってですね、名古屋の河村市長と

か、自らの給与を下げましたね。で、いわゆる市議会議員の報酬は高いということを書いて公約を掲げて、それは市民にも認められて当選されました。大村さんもそういうことを言ってみえました。今度鈴木知事が新しい三重県知事になりました。鈴木知事も公務員の削減をとらえております。その時の議長さんが言われた、若い人たちが県議会議員になろうとしない理由、そのことはもちろん歳費と関係あると言ってみえたんですが、三谷議長はそれについてどう思われますか。

(議長)一つは報酬が高いか安いかの議論はですね、これは私前からお話をさせていただいてますが、県議会議員としての職責を遂行する対価としていくらが適切なのかなどはやはり有識者ですとか、県民の代表が入った第三者機関できちんと根拠を積み上げていただいて、決定されればいい話でありまして、その金額が安いとって受け入れられない方は県議会議員に立候補されなければいいことなんで、安い高いをそれをもろう議員の方で判断すべき話ではないと思うのが一つ、それからもう一つはですね、なりたがらないというか、なれない環境が一つあると思っておりまして、例えば今県議会、県議会だけじゃないんですが、市議会議員もそうなんですけども、今勤めている会社ですとか、今いろんなことをされてる仕事を捨てて選挙に立候補して、もし落選したら、またその職籍に戻れないというような厳しい現実があれば、それは子育て、小さなお子さんがおられるようなご家庭ですとか、そういうところすとなかなかそれに踏み切るだけの勇気はないわけで、できればもう一度復職できるような仕組みですとか、それから小さい自治体議会でしたら、当然夜間ですとか、休日等の議会等を開いて、一方で勤めながらそういう議員活動ができるというような環境整備をするとかですね、いろんな知恵を出して、多くの方々が立候補しやすい環境整備というのは当然必要だと思っています。ただ、県議会議員の場合は、非常に取り扱う間口が広いものですから、兼業というのは事実上不可能でありますので、専業で議員に専念できる環境整備は当然必要ですが、先ほど言いましたように、報酬の多寡を理由にうんぬんではなしに、それはきちんと第三者の方にご判断をいただいて、その中で志を持って、出てきていただける方に立候補していただければこう思っています。

(質問)今回、鈴木さんは選挙戦の中で、改革というものを前面に打ち出していたと思うんですけど、一方で岡田幹事長は今回の選挙というのは、改革を前に進めるのか、戻すのかの戦いになってくるので、逆に鈴木さんが知事になった場合は、改革が後ろにいつてしまうというようなことを強調されていたんですが、三谷議長としては今回鈴木さんが知事になることで、これまでの県議会を含めた改革というのが後戻りしてしまうという懸念はあると思いますか。

(議長)別にそういう懸念は持っておりません。二元代表制ですから、議会は議会で直接選挙で選ばれますし、知事は知事で選ばれるわけですから、それぞれ民意を代表して選ばれた者同士が真摯な議論を重ねて県民のために良い政策を作り上げていけばいいだけのことで、鈴木さんが知事になったから改革が後ろ向きになるとか、議会の改革も逆戻りするとかそういうことの心配はあまりしておりません。

(質問)議長が代わられると、この議長の定例会見の在り方も変わる可能性が出てくるかと思うんですけども、定例会見は今後どうあるべきだと現議長として思われるかっていうことを最後をお願いします。

(議長)定例会見は別に私が好きだからやっているという話では当然なくて、ただ一回では僕は不足だと思ってます。知事が2回なら当然議長も2回ぐらいはやるべきだと。ただ議会事務局がそんなにということで袖を引っ張られるものですから月1回で我慢しておりましたが、本当は月2回ぐらいはやるべきだと思っていますし、議会の考え方ですとか議長の考え方、また、議会の方向性等を定期的に県民にご報告をさせていただく上では非常にいい機会ですから、これは新しい議長がどなたになられようと、ぜひ続けていただきたいと思っております。それと同時に、こういう場でいろんな質問をお受けして、それにご答弁させていただくということは、議長自身の資質を鍛え上げる絶好の機会でも当然あるわけですから、その意味でも新しい議長には定例記者会見はぜひ続けていただきたいと思います。

(質問)そういう申し送りはしていただいている。

(議長)必要あらばさせていただきますし、もしそういうのをしたくないというような方が議長になられたら、ぜひするようにアドバイスをさせていただきますと思います。

(以上) 11:16 終了